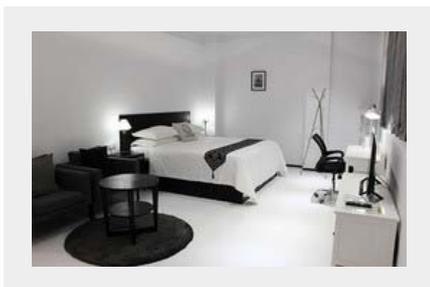


新三平建設がヤンゴンでホテル 現地事業の第一歩、人材育成も

マンション・公共建築物建設の新三平建設（東京都台東区）は2日、ミャンマーの最大都市ヤンゴン中心部で手掛けていたビジネスホテルの改装オープン式典を実施した。現地事業の第一歩としてホテル運営事業に乗り出すとともに、建設部門の現地人材育成も進め、コストや品質、スケジュールなどを建設業者との間に立って管理するコンストラクション・マネジメント（CM）業務などの新規事業受注を目指す。

新三平建設が運営するのは、ヤンゴン中心部のダウンタウン地区にあるビジネスホテル「YAMAホテル&ドミトリー」。ミャンマーの法律では、外資企業は土地・建物の取得や建設業に直接参加できないが、以前より事業関係のある現地企業と連携して経営権を取得した。現地法人の新三平ミャンマーによるマネジメントのもと、現地の建設会社が改修工事を実施した。



新三平建設が運営する「YAMAホテル&ドミトリー」の部屋（NNA撮影）

2～8階のホテルフロア全18室のうち、10室を改装。シングル、ダブル、ツインの個室の一部は、白と黒、グレーが主体のシンプルな色調のインテリアに刷新した。ミャンマーでは、こうしたデザインにこだわった内装資材の調達も容易ではなく、タイや日本から輸入した部材も多数あるという。

日系企業が多数入居するビジネスビル「サクラタワー」や中心街のシンボルでもある寺院、スーレーパゴダまで徒歩12分程度で行けるほか、ヤンゴン郊外のティラワ経済特区（SEZ）までは車で1時間程度。長期出張などで訪れる日本人ビジネスマンの利用を高めたい考えだ。

価格はシングルで50米ドル（約5,300円、税・サービス料別）、最も広いラグジュアリーダブルでも90米ドル。共有ラウンジやキッチンのほか、テレビ会議にも支障がない水準の高速インターネット環境を備えているとしている。

また、最上階の9階はルーフトップのカフェ&バーとして営業し、宿泊者は市街地の景色を眺めながら朝食をとることができる。以前のホテルで備えていたドミトリータイプの部屋も、引き続き提供する。

■日本で現場監督、CAD人材研修

新三平建設は、ミャンマー建設市場への参入を視野に、ミャンマー人男性3人を現場監督、女性2人を建設現場で使用する施工図の設計を行うコンピューター支援設計（CAD）オペレーターの研修のために日本本社に受け入れている。今回のホテル改修は、将来的にミャンマー事業の要の人材とする予定の現地人人材がスキルを生かす場ともなった。

飯田忠房社長は2日に開催された式典で、「日本の建設技術をいずれミャンマーに取り入れたいと考えている。ホテル開業を第一歩とし、この地での事業を育てていきたい」とあいさつした。



「ホテル運営を第一歩にミャンマーでの事業を育てる」とあいさつした飯田社長（右端）＝2日、ヤンゴン（NNA撮影）

関連国・地域：ミャンマー／日本

関連業種：建設・不動産

▶ ウィンドウを閉じる